

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号  
**実用新案登録第3143969号**  
**(U3143969)**

(45) 発行日 平成20年8月14日(2008.8.14)

(24) 登録日 平成20年7月23日(2008.7.23)

(51) Int.Cl. F 1  
**F 2 4 C 15/14 (2006.01)** F 2 4 C 15/14 D  
**F 2 4 C 15/08 (2006.01)** F 2 4 C 15/08 F  
**F 2 4 C 3/14 (2006.01)** F 2 4 C 3/14 Z

評価書の請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 実願2008-771 (U2008-771)  
 (22) 出願日 平成20年2月15日(2008.2.15)

(73) 実用新案権者 308003862  
 斎木 豊  
 岐阜県土岐市泉町河合560番地の1 美濃開山窯内  
 (72) 考案者 斎木 豊  
 岐阜県土岐市泉町河合560番地の1 美濃開山窯内

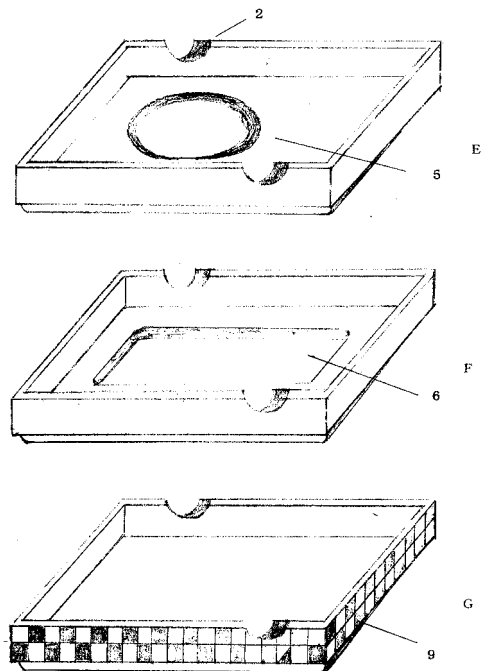
(54) 【考案の名称】 陶磁器製卓上ガス焔炉受皿

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 適度な高さを有した四角形以上の多角形状の受皿に、装飾と機能溝を設けた構造の鍋料理専用卓上ガス焔炉受皿を提供する。

【解決手段】 装飾を施した陶磁器製受け皿の、左右の対角にガス焔炉の点火・火力調整・消火作業用の開放部 2 をもうけ、該受け皿の底部に、土鍋噴き零れ水溜凹溝として、土鍋底部同等凹溝 5 または、卓上ガス焔炉脚凹溝あるいは該土鍋底部同等凹溝 5 および卓上ガス焔炉脚凹溝を兼ねる共用凹溝 6 を設ける。受け皿は、陶磁器でなくても、金属製やプラスチック製であっても良い。

【選択図】 図 3



**【実用新案登録請求の範囲】****【請求項 1】**

適度な高さを有した四角形以上の多角形状の、卓上ガス焔炉受皿であって、座卓を飾る受皿に、陶磁器製装飾受皿を特徴とする卓上ガス焔炉陶磁器受皿。

**【請求項 2】**

卓上ガス焔炉の点火並びに火力調整・消火作動スイッチ摘み部に左右開放を対角に設けた請求項1記載の卓上ガス焔炉受皿。

**【請求項 3】**

前記受皿に、土鍋吹き零れ水溜凹溝を設けた請求項 1 記載の卓上ガス焔炉受皿。

**【請求項 4】**

前記受皿に卓上ガス焔炉脚部凹溝を設けた請求項1記載の卓上ガス焔炉受皿。

10

**【請求項 5】**

前記受皿に、土鍋を積み重ねる凹溝を設けた請求項1記載の卓上ガス焔炉受皿。

**【請求項 6】**

前記受皿に、請求項 3 . 4 . 5 凹溝を共有する凹溝請求項 1 記載の卓上ガス焔炉受皿。

20

30

40

50

## 【考案の詳細な説明】

## 【技術分野】

## 【0001】

本実用新案は陶磁器製卓上ガス焔炉受皿に関する。

## 【背景技術】

## 【0002】

新規性に付きデータ無し。

## 【特許文献1】無し

## 【考案の開示】

## 【考案が解決しようとする課題】

10

## 【0003】

本実用新案は、座卓に於いて卓上ガス焔炉で土鍋を使用するとき、卓上ガス焔炉は金属製である。飲食時に使用する器は全て陶磁器であるので、座卓に於いて卓上ガス焔炉は雰囲気になじまない。受皿に器と同等陶磁器受皿を置くことに依り、座卓の雰囲気により一層増す。

## 【課題を解決するための手段】

## 【0004】

本実用新案は、卓上ガス焔炉受皿を使用することで、座卓雰囲気に同質感が生じる。

## 【0005】

上記受皿に、土鍋吹き零れ水溜溝を設けることは、吹き零れ時に凹溝に溜まるので、吹き零れなく座卓美化につながる。

20

## 【0006】

上記受皿に、ガス卓上焔炉脚部凹溝を設けることは、土鍋を置いたときに、受皿と焔炉に連結が生じ、飲食に於いて安全である。

## 【0007】

上記受皿に、土鍋底部と同等の凹溝を設けることは、受皿の上に土鍋、受皿の上に土鍋と順に積み重ねが出来るので収納スペースに於いて、受皿と土鍋の収納が有利に確保出来る。

## 【0008】

上記受皿に、卓上ガス焔炉の点火並びに火力調整、消火スイッチ摘み部を左右対角に開放部を設けることは、座卓に於いて焔炉設置が簡単に出来る。

30

## 【考案の効果】

## 【0009】

本実用新案受皿は、座卓にて土鍋料理を食べる食器類は全て陶磁器であり、卓上ガス焔炉は金属製であるので受皿に置くことで、材質同質感が生まれ、受皿に装飾を施すことで、なお一層の座卓飲食雰囲気作りが出来る。

## 【0010】

本実用新案受皿は、内部底面に土鍋吹き零れ水止め凹溝が設けてあるので、料理最中万が一吹き零れても受皿内に留まり座卓を汚さない。

## 【0011】

本実用新案受皿は、内部底面に卓上ガス焔炉脚の凹溝が設けてあるので、受皿と卓上ガス焔炉の連結ができ、飲食に於いて安定である。

40

## 【0012】

本実用新案受皿は、土鍋底部と同等の凹溝が設けてあるので、受皿と土鍋（蓋は反対にして鍋内に収納）と一緒に保管、又、積み重ねることもできるので、収納スペースも簡単に確保ができる。

## 【0013】

本実用新案受皿は、卓上ガス焔炉の点火、火力調整、消火に於いて、受皿にスイッチ摘みが作動出来るように左右対角に開放部が設けてあるので、座卓に於いて双方どちらからでも焔炉をセットできる。

50

## 【考案を実施するための最良の形態】

## 【0014】

本実用新案の形態を、図面に基づいて詳しく説明する。

## 【実施例1】

## 【0015】

図1．Aは本実用新案の受皿の、適度な高さを有した四角形以上の多角形状で装飾を施した9の斜視図であり、Hは卓上ガス焔炉、Kは土鍋の斜視図である。

## 【実施例2】

## 【0016】

図2．Bは本実用新案の受皿の、卓上ガス焔炉の点火、火力調整、消火のスイッチ摘みの作動出来るように左右対角に開放部2を実施示した斜視図である。

10

## 【実施例3】

## 【0017】

図2．Cは本実用新案の受皿の、内部底面3に土鍋吹き零れ水溜凹溝3の斜視図である。

## 【実施例4】

## 【0018】

図2．Dは本実用新案の受皿の、内部底面4に卓上ガス焔炉脚凹溝の斜視図である。

## 【実施例5】

## 【0019】

図3．Eは本実用新案の受皿の、土鍋底部同等凹溝5の斜視図である。

20

## 【実施例6】

## 【0020】

図3．Fは本実用新案の受皿の、図Cの土鍋吹き零れ水溜・図Dの卓上ガス焔炉脚・図Eの土鍋底部同等の凹溝、それぞれの凹溝6を共有の斜視図である。

## 【実施例7】

## 【0021】

図3．Gは本実用新案の受皿に、装飾を施した実施を示した斜視図である。

## 【図面の簡単な説明】

## 【0022】

30

【図1】本実用新案受皿Aで、Hは卓上ガス焔炉、Kは土鍋の斜視図である。

【図2】Bは卓上ガス焔炉の点火・火力調整・消火摘み部作動部の対角開放斜視図である。Cは内部底部に土鍋吹き零れ水溜凹溝の斜視図である。Dは卓上ガス焔炉脚凹溝の斜視図である。

【図3】Eは内部底部に土鍋底部同等凹溝の斜視図である。Fは図C、D、Eの凹溝を共有した凹溝の斜視図である。Gは装飾を施した斜視図である。

## 【符号の説明】

## 【0023】

A：本実用新案卓上ガス焔炉受皿

H：卓上ガス焔炉

40

K：土鍋

1：本実用新案受皿

2：卓上ガス焔炉の点火・火力調整・消火作動スイッチ摘み開放部

3：土鍋吹き零れ水溜凹溝

4：卓上ガス焔炉脚凹溝

5：土鍋底部同等凹溝

6：上記3・4・5の共有凹溝

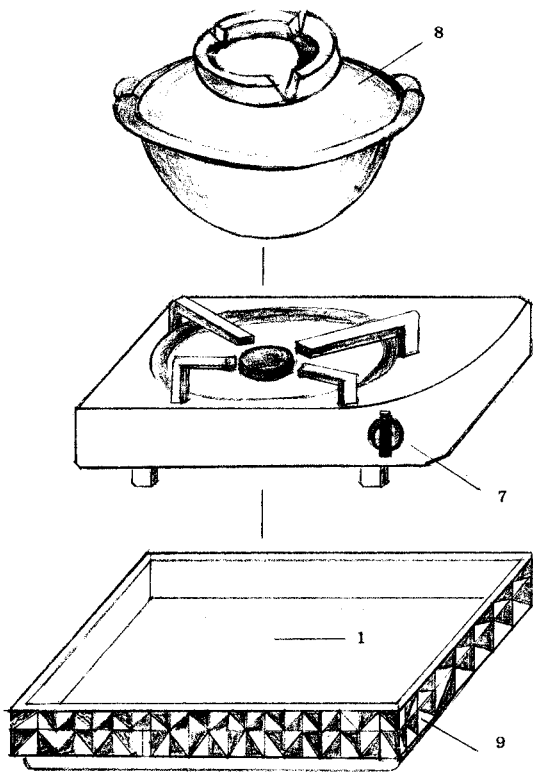
7：卓上ガス焔炉作動スイッチ摘み

8：土鍋蓋

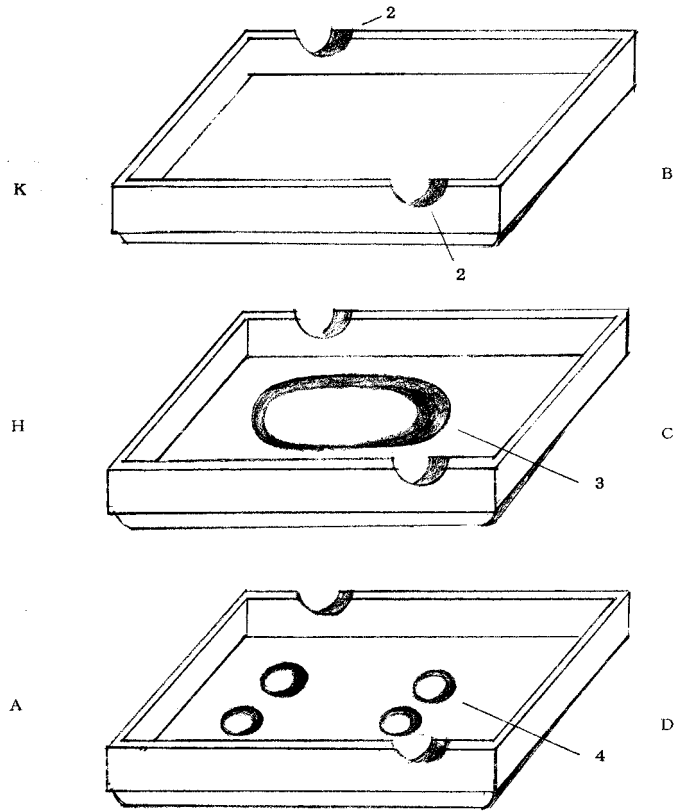
9：装飾

50

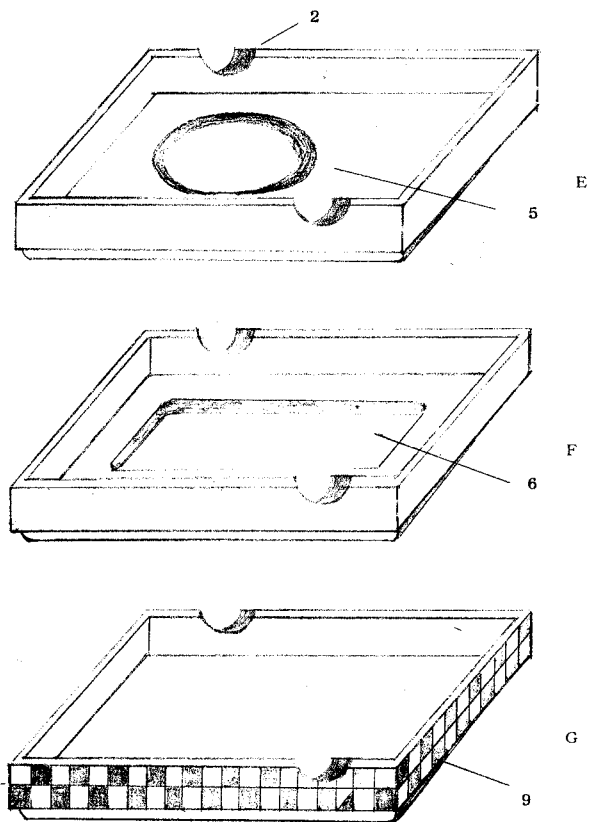
【 図 1 】



【 図 2 】



【 図 3 】



## 【手続補正書】

【提出日】平成20年5月11日(2008.5.11)

## 【手続補正1】

【補正対象書類名】実用新案登録請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

## 【補正の内容】

## 【実用新案登録請求の範囲】

## 【請求項1】

適度な高さを有した四角形以上の多角形状の、卓上ガス焔炉受皿であって、座卓を飾る受皿に、陶磁器製装飾受皿を特徴とする卓上ガス陶磁器受皿。

## 【請求項2】

卓上ガス焔炉の点火並びに火力調整・消火作動スイッチ摘み部に左右開放を対角に設けた請求項1記載の卓上ガス焔炉受皿。

## 【請求項3】

前記受皿に、土鍋吹き零れ水溜凹溝を設けた請求項1記載の卓上ガス焔炉受皿。

## 【請求項4】

前記受皿に卓上ガス焔炉脚部凹溝を設けた請求項1記載の卓上ガス焔炉受皿。

## 【請求項5】

前記受皿に、土鍋を積み重ねる凹溝を設けた請求項1記載の卓上ガス焔炉受皿。